

自立活動だより



平成28年10月発行

10月の自立活動だよりは、小学部の自立活動の取組について紹介します。

今回は1ブロックの低学年での取組と、2ブロックの中学年での取組を紹介します。



【1ブロック】

1ブロックの低学年では、週2時間、自立活動の「時間における指導」を設定しています。授業形態は、個別指導または、指導の目標を達成する上で効果的だと考えられる小集団での指導を行っています。実際の授業内容は様々ですが、今回は個別での取組を紹介します。

文字は読めるが、発音が不明瞭な児童に対して、(1) 発音を明瞭にしてコミュニケーションの力を伸ばす。(2) 読む、書く、話すことを通して言葉への興味を広げること を指導目標にして取り組んでいます。〈コミュニケーション〉

授業においては、始めにきちんと課題提示をして、児童が見通しをもって、進んで学習に取り組んでいけるようにしています。また、ゲーム性のある課題を取り入れることで、楽しみながら学習に取り組めることを大切にしています。



〔取組内容〕

①顔・唇のマッサージ



②吹く練習



①顔・唇のマッサージや舌や唇の動き や
②呼気吸気のコントロールの練習を通じて、構音運動を高め、明瞭に発音できる言葉を増やすことをねらいとしています。

③ことば

(A)



音節を意識して

(B)



かるたゲームを通して



①カードを見ながら、次にやることを「これ」と指さしながら教師と一緒に取り組めました。②も楽しんで取り組みました。

(A) 音節を意識して単語を正しく読んでいく学習から、(B) 二語文で伝える学習を通して、会話をする力を高めることをねらいとしています。

(A) 自分から進んでカードをめくっていき、文字をマッチングさせながら、単語を一文字一文字丁寧に発音していくことができました。また、(B) 二語文で伝える学習では、ゲーム形式を取り入れることで楽しんで活動ができています。絵カードを見て、自分からお話もできています。

④ひらがな



プリント学習

文字をなぞり書きする学習を通して、言葉への興味を広げ、言葉の数を増やすことをねらいとしています。

書く力も上達してきていて、自分で単語を読み進めながらなぞり書きができています。



【2ブロック】

2ブロックでは、毎朝と月、木、金曜日の午後に自立活動の「時間における指導」を設定し、児童の実態に応じて指導をしています。今回は身体の動きとして、姿勢・運動面の発達に課題のある児童への取組の一例を紹介します。

この取組は、姿勢・運動発達と認知発達との関係性に着目し認知そのものを育てるという視点から、体操、介助歩行、立位の他に認知面の向上のための取組として、「感覚と運動の高次化発達診断評価」による発達理解から具体的指導を実践し、主に教材を通して認知面を伸ばすことを目指しています。

(参考資料：飯野順子編著『障害の重い子どもの授業づくり Part 3』)

現在の具体的な課題内容は

- ・ 抜く・とるで終点理解
- ・ 渡された玉を缶に入れる
- ・ 投げて終わりの理解
- ・ 入れたりはめたりして終点を喜ぶ



毎日5分でも取り組んでいます。終わりの見通しを持つためにタイムタイマー（視覚的支援）キッチンタイマー（音）を活用しています。

課題箱に入っている3つの課題上から順番にしています。

さあ、はじめよう！
1番のカゴにはどんな課題が入っているかな？



入れ物の中の物を引っ張ったり、抜いたりする課題

- ・ 抜き終わり（終点）の理解を促します。



イボイボのひもを引っ張っています。
長いなあ～・・・

渡された玉を穴に入れる課題

- ・ 玉を手渡ししてコミュニケーションを取りながら穴が開いた箱の中に入れていきます。
- ・ かごの中の玉がなくなると拍手して終わりを伝えます。



次の課題

- ・ 2種のはめ板で○を弁別 視覚弁別（見分ける、見比べる）
- ・ ビー玉を皿からつまんでビンの穴に入れます。
- ・ ペグをさしたり小さな穴に入れます。
- ・ 具体物と写真のマッチングをします。



写真と同じフォークをマッチング！